

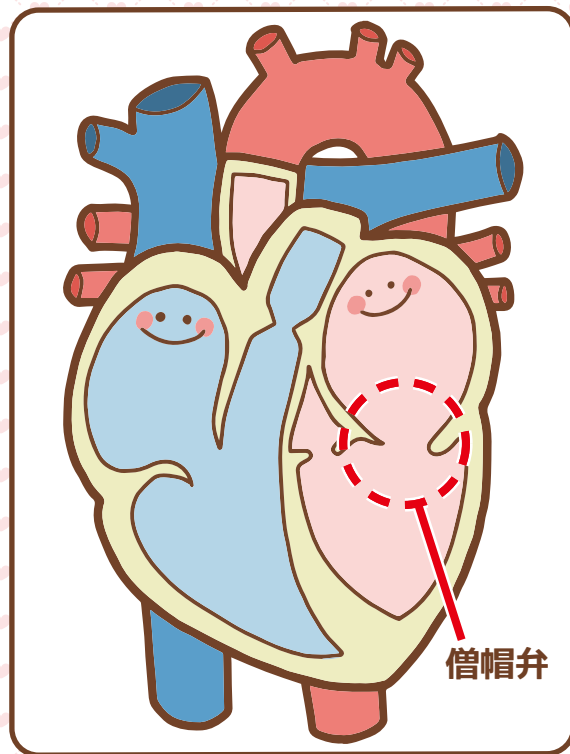
# Heart Letter vol.02

## 僧帽弁閉鎖不全症

今回は僧帽弁閉鎖不全症に対する治療とその治療を実際に受けられた患者さんの思いを中心に書かせていただきます。

### 僧帽弁閉鎖不全症 (そうぼうべんへいさふぜんしょう)

心臓の中には4つの部屋があり、そのうちの左心房と左心室のあいだにある“ドア”のような役割をしているのが僧帽弁です。血液が左心房から左心室へ流れるときに開いて、逆流しないように閉じる役割を果たしています。僧帽弁閉鎖不全症とはこのドア(僧帽弁)がちゃんと閉まらなくなって、血液が逆流してしまう病気です。心臓が拍動して血液を体を送るときに、一部の血液が左心房に戻ってしまいます。軽くと無症状のことも多いけど、進行すると息切れ、疲れやすい、胸の動悸、足のむくみなどの症状が出現します。



### 僧帽弁閉鎖不全症の治療

僧帽弁閉鎖不全症の手術には、大きくわけて2つの方法があります。自分の弁を使って治す僧帽弁形成術と人工弁に交換する僧帽弁置換術です。患者さんの年齢・症状・弁の状態・他の病気などを考えて、最適な方法を選びます。

# 僧帽弁閉鎖不全症

## 今回のパートナー

2024年に僧帽弁形成術をお受けになられたTさん(77歳、女性)です。

ではさっそくお話を伺いましょう。

### Q 術後経過はいかがでしたか？

Tさん「術後も手術もスムーズに行ったのであんまり記憶にないです。申し訳ない。」



✳ 患者さんをお願いして編集者の似顔絵を描いていただきました。

### Q 退院後日常生活はいかがですか？

Tさん「今は普通に生活しています。大阪市内で仕事もしています。年のせいだと思っていた階段の登り降りの辛さが心臓のせいだと分かり、それを軽減して下さった先生や看護師、その他の関係者の方々に感謝です。」

### Q 最後にコメントをお願いします。

Tさん「私の友人のお母さんも18年前に同様の手術を受けて今もお元気だそうです。人間って身体の悪いところをキチンと治療するとキチンと生きれるんだと思いました。心臓手術は生まれ変わるチャンスなんだとも思いました。このチャンスは大切にしたいです。」

## 最後に

今回の患者さんは入院中に絵を描いていたのでとても印象に残っています。もともと絵が趣味で、いつも明るく冗談まじりにお話しをしてくださるので、外来でも楽しませていただいております。個人ブログもやっているそうなので興味のある方は心臓血管外科までお問い合わせ下さい。社会復帰ややりたいことができるようになったと言われる事ほどやりがいを感じる瞬間はありません。このような手助けができるように心臓血管外科スタッフ一同お待ちしております。